

岩見沢型授業のポイント

【教材研究】

STEP 1 学ぶことへの納得

教師が「何を教えるか」、子どもが「なぜ学ぶのか」を
自分の言葉で表現できる授業への転換



単元構想図の作成・共有

- 本単元を通して、「どんなことができるようになるか」「日常生活とのつながりや、将来の生き方にどうつながるか」を共有します。
- そのうえで、本時は「単元のどこに位置しているのか」「何を学ぶのか」「どう学ぶのか」「どんな姿を目指すか」を教師と子どもが自分の言葉で表現できるようにします。

STEP 2 学びの動機づけのアップデート

【導入】

教師の「教えたがいを」を子どもの「学びたい」に変える

仕掛けがある授業への転換



子どもの心に灯を点ける動機付け

- 「なぜ」「どうして」「何だろう」「どうなっているんだろう」「どうなるんだろう」「～したい」「～できるようになりたい」という思いを抱ける仕掛けを考えます。
- そのうえで、ICTや具体物などを活用し、インパクトのあることをコンパクトに示します。



STEP 3 Let's型から Can型へ

【課題提示】

身に付けるべき資質・能力を明確にした授業への転換

学習の明確化

- 何ができるようになるために、何の活動をするか、目的意識を明確にします。
- 授業の課題はもとより、学習活動の中での指示も「何のため」を繰り返し伝えます。



STEP 4 自己決定

【展開】

子どもが自分に合っためあてや学び方を決められる授業への転換

指導の個別化と学習の個性化

- 課題提示後、自分のめあてや問いを設定(より具現化)し、自分の決めた学び方で学べるようにします。
- 「協働的な学びの視点」に目を向け、自分と異なる他者と同じ空間で学ぶメリットを生かし展開を行います。



STEP 5 振り返り

【終末】

子どもが自身の学び方をメタ認知・可視化できる授業への転換

変容の実感を伴うメタ認知

- 「わかる楽しさ」「伸びる喜び」を実感するとともに、自らの学び方の振り返りや次時につながる自己調整の時間にします。
- 自己のみならず、他者評価等、多面的・多角的な振り返りを行います。

